

第 2 回山北町総合計画審議会 議事録（案）

- 日 時 令和 5 年 6 月 8 日（木）13 時 30 分から 16 時 10 分まで
- 場 所 山北町役場 4 階 401 会議室
- 出席者 [委 員] 前田会長、渡辺会長職務代理者、佐藤（直）委員、高杉委員、
佐藤（精）委員、松澤委員、福岡委員、鳥海委員、瀬戸委員、荻野委員、
山崎委員、有泉委員、坂本委員、池田委員、石田委員
[事務局] 参事兼企画総務課長、企画総務課担当職員
- 欠席者 曾我委員
- 配付資料 ・次 第
・資料 1 第 1 回山北町総合計画審議会 議事録（案）
・資料 2 町民アンケート調査 報告書
・資料 3 各種団体調査 報告書
・資料 4 山北町に移住・定住された方へのアンケート調査 報告書
・資料 5 中学生によるワークショップ結果
・資料 6 山北町第 5 次総合計画後期基本計画 評価・検証結果
・資料 7 山北町第 6 次総合計画基本構想（素案）

○会議概要

1 開会

ただ今から、第 2 回山北町総合計画審議会を開会します。会議の開催に先立ち、委員の変更について報告いたします。山北町連合自治会長会の高橋会長が 3 月末で任期満了となり、新たに渡辺会長が委員に就任されましたので、引き続き職務代理をお願いしたいと思います。本日曾我委員におかれましては、欠席の連絡をいただいておりますのでご報告します。

2 会長あいさつ

本日は大変お忙しい中、当審議会にご出席いただき有難うございます。前回は町長から諮問を受け、会議全体の概要説明や今後の進め方についての議題が中心でしたが、本日から本格的に審議に入ってまいりますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

3 議題

（1）第 1 回審議会議事録の確認について（資料 1 により事務局より説明）

会 長： 3 点修正をお願いしたい。2 ページの「コロナ禍ということもあり、直接議論に参加することが出来ず、書面での参加という形となってしまいました。また、地域づくり組織運営委員会にも関わらせていただいております。」を、「また、地域づくり組織運営委員会にも関わらせていただいておりますが、コロナ禍ということもあり、直接議論に参加することが出来ず、書面での参加という形となってしまいました。」に、3 ページの「回収率は高ければ高いほう精度が」を「回収率は高ければ高いほうが精度の」、4 ページの「重複してしまうのはやむを得ない。」を削除してほしい。

(2) 山北町第5次総合計画後期基本計画 評価・検証結果について (資料6により事務局説明)

- 委員: 進捗率が「100%」でも「実施済み」でないものがあるが何故か。
- 事務局: 事業の内容や性質によって異なるため一律の評価は難しいと考えている。担当課の職員が自己評価しているため、細かな評価が異なる場合もある。
- 委員: 進捗率が「60%以下」のもの理由は何か。財源の問題なのか、それとも職員数や人材なのか。
- 事務局: そこまでの評価は出来ていない。
- 委員: そのような視点が必要かと思う。
- 会長: 新しい計画が策定されれば、それに合わせた職員体制や予算編成についても配慮されると思う。また、現計画の目標年次は2023年であるが、今日示されたのは1年度前、現時点での評価であって、最終的にはもっと評価が高まる可能性があると考えて良いか。
- 事務局: そのとおりである。
- 会長: 「修正して継続」と「継続」があるが、「継続」はそのまま何も変えないということか。通常、何かしら微修正を加えながら進めるものとするがどうか。
- 事務局: 業務の中にはルーティンワークもある。単に「継続」としていてもブラッシュアップしていくことは必要と考えている。
- 会長: そうすると「修正して継続」としているのは、何か大きな方針転換や新たな何かを加えられるといったことで、通常の「継続」とは違うという理解で良いか。
- 事務局: 5年、10年先を見据えた時に、現時点で明確に修正が必要と判断している場合などは、「修正して継続」と評価しているとする。
- 委員: 新しい計画を策定するにあたって、一番大事なのは進捗状況と考えるが、今の説明では疑問を感じる点が多くある。何を基準に評価しているのか、進捗状況の捉え方がよく分からない。パーセンテージの把握の仕方に疑問を感じる。例えば「行政評価システムの調査・研究」や「職員提案制度の見直し・運用」が理解出来ない。また、「広域幹線道路整備の促進」は何をもって20%としているのか。大きな幹線道路を作るには、近隣自治体との調整が先ず必要であり、理解が得られて初めて県や国が動くものである。よってそこまで動いていなければ0%に等しいのではないか。また、実施状況を見ると「実施中」が多く、「実施に向けて検討中」が少ない。やり残しているものが後1年で終わるのか。町で課題になっていることは進捗状況が悪いはずである。計画の中で手つかずのものも多いのではないか。それを新しい計画でも取り組むのかどうかは、進捗状況の中でしっかりと精査しなければ判断出来ないのではないか。
- 事務局: 一つ一つ事業のより細かな分析も必要だが、職員の業務は分析だけではないため、各課で評価検証し、委員の皆様にお示し出来る内容としてはここまでと考えている。
- 委員: 他にも「広域観光ルートのネットワーク化」や「観光ボランティアガイドの育成」の進捗率は理解出来ない。「山北駅北側元気づくりプランに基づく商業施設等を活用した周辺地域の活性化の促進」は100%となっているが、山北駅前の商店街は一番衰退しており、再整備は今後も必要なはずである。「東山北1000まちづくり基本計画に基づく商業施設の整備促進」は商業施設が進出したことで100%となるのか。商業施設の基本計画があるのか。
- 事務局: 東山北1000まちづくり基本計画に基づく商業施設の整備計画は無いと思う。山北駅に

については、担当課である定住対策課において、サンライズ山北の建設やコンビニエンスストアなどの整備は終了したという認識であり、今後も更なる活性化は必要と考えている。

会 長： 計画づくりにあたっては限界があると思う。限定された部分であれば達成感が高いが、広く見た時に少しでも出来ていない部分があると達成感が低くなるということをおっしゃられていると思う。

委 員： 現在の後期基本計画を策定する時に、前期基本計画の継続事業が多かったと思う。全体的に進捗が悪いと感じている。

会 長： 今回の検証結果では高い進捗のように見えるが、達成出来ていない部分については、出来るだけ抜け落ちの無いよう新たな計画に盛り込んでいければ良いのではないかと。

委 員： 「広域ハイキングコースの検討、整備」は町の評価よりもっと進んでいると思っている。「SUP・カヌー推進による観光振興の推進」が60%となっているが、年間の利用率は分かるか。

事務局： 事務局では把握していない。

委 員： 当初は艇庫が完成するなど環境は整備されたかもしれないが、その後の利用率は上がっていないのではないかと。

会 長： この場で数値の妥当性を一つ一つ議論していくのは難しいのではないかと。

委 員： 事務局から説明のあったとおり、進捗が0%だから継続しない、100%だから終了するというのではないと思う。会議の進め方として、章ごとに議論するのか、それとも0%のものを議論するのかお聞きしたい。今の流れではパーセンテージの数字に捕らわれてしまっており、本来の議論に進んでいかないのではないかと。

委 員： 「東山北1000まちづくり基本計画」は課も跨り幅広い計画である。進捗率が100%と言われると疑問を感じてしまう。

委 員： 進捗状況そのものを議論するのではなく、新しい計画の政策実施に繋げていかなければならない。町は絵にかいた餅にならないように取り組んでいかなければならない。今後は、国の理解や県の力を得なければ出来ないもの、民間事業者や各種団体、町民の理解がないと進まないものもあると思う。進捗が悪いからどうこうではなく、新計画を作る時に大きな効果を生むのではないかと。今後は、実施を取り止めなければならぬものもあれば、多様性や脱炭素など新たに取り組んでいかなければならぬものも出てくる。国の政策に乗らなければならぬものは優先的に取り組まなければならぬ。そのようなことを幅広く議論するには、進捗が一番大事ということをおっしゃりたい。最終的には評価検証に取り組む各課の参画意識が重要になると思う。

事務局： 中々、一つ一つの事業を説明するのは時間的にも難しい。

委 員： 委員は資料を事前に読んでくるので、一つ一つの内容は会議で説明しなくても良い。資料を見て疑問を感じたことを会議で発言してもらえば良い。事務局が全ての事業の詳細を把握しているはずもなく、一日の会議で全てを説明するには時間が足りない。説明で終わってしまうのはおかしい。

会 長： まだ議題も残っている。今日は(4)基本構想の素案が重要な議題となる。事前に資料を送付しているので、(2)評価検証と(3)アンケート結果について、総論的な部分で不明な点があれば質問して答えていただき、それを踏まえて(4)基本構想の素案に入りたい。

ここで一つ一つの事業について延々と議論していても生産的ではない。細かい事業の内容については、基本計画の時に議論をしていただきたい。

委員：町では庁内会議において身内に甘い評価は駄目だと言ってきた。例えば「洒水の滝遊歩道の整備」は100%となっているが、洒水の滝周辺の観光振興を新しい計画で行わないかと言えばそうではない。他にも広く見れば進捗度が評価検証よりも低いものもあると思うので、そこは新しい計画に繋げていきたいと考えている。

事務局：不明な点があれば質問していただき、各課に確認して回答させていただく。

委員：そういう思いで質問をしている。資料に示された評価検証の結果が全て正しいとは思っていない。このパーセンテージが正しいと委員が理解していたら大きな間違いだということを知りたい。

委員：評価検証の結果を新しい計画に活かしていかなければならない。それぞれ事業の性質やボリュームも異なり、担当課によっても見方も違うところは理解いただきたい。

会長：もう少しマクロな見方や大枠な観点から何か質問があればこの場でいただき、細かな点でそれ以外に質問や意見があれば事務局へ伝えていただき、次回の会議で回答していただくようにしてはどうか。

事務局：そのようにさせていただきたい。

委員：数字に引っ張られてしまうところがある。事業毎の評価検証も大切だが、大枠の章や節でまとめて、全体的に捉えてこの部分が不足だったから、基本計画ではこう進めたいといった文章での評価も大切ではないか。

事務局：今後、検討させていただきたい。

委員：「地域福祉の推進」に「生活保護受給者の就労開始件数」が位置付けられているが、これは地域福祉なのか。

事務局：今後の整理とさせていただきたい。

会長：先ほど確認したように、個別の内容は基本計画の議論の中でお願いする。

委員：資料6-2の見方が分からない。「自立したまちづくり」の指標に「自治会への加入率」が急に出てくるが、つながらないのではないか。

事務局：計画書から「指標」を抽出して記載しているものである。

委員：「職員提案制度の見直し・運用」の進捗率が0%だが、町民の声は職員の声にもつながると思うので、継続していただきたい。

事務局：企画総務課が担当のため回答させていただくが、何年実施しても中々提案が出ないため終了と判断させていただいた。

委員：そうだとすれば、なぜ後期基本計画を策定する時に辞めなかったのか。おそらく同じようなことが他にもあるのではないか。実現していくものを入れていかなければならない。よって評価検証が大切だと言っている。

委員：制度を終了するのではなく、職員が提案しやすい別の形で新しい制度を考えていく必要があると思う。

会長：提案が無かったら辞めなければならないのかは議論が分かれるところだが、具体的には今後の検討となると思う。

委員：現計画は427の項目があるが、次期計画もこの項目数なのか。私は多いと感じており、多いからチェックが甘くなってしまうのではないか。もっとコンパクトにして庁内組織

にあったチェック体制を構築するべきではないか。

事務局：他の自治体と比較するものではないが、よりコンパクトな自治体もあれば、現在の山北町の計画よりもボリュームが多い自治体もある。427 の項目数が多いか少ないかという議論もあるが、だれが見ても分かりやすく、コンパクトな計画に整理していく必要はあると考えている。具体的な検討はこれからだが、委員の皆様のご意見も踏まえて考えていきたい。

(3) 各種アンケート調査等の結果について

①町民アンケート調査（資料2により事務局説明）

委員：対象者の地区のバランスはどうか。

事務局：対象者は無作為で抽出したが、年齢や性別、地区のバランスは住民基本台帳登録者の現状の割合で抽出した。

委員：回収のバランスはどうか。

事務局：若年層が少なく高齢層が多い結果となった。

委員：自分は交通や商業に関心があるが、町としてはアンケート結果をどう感じたか。

事務局：住みにくい理由として、公共交通や買い物の関係は大きな課題と感じている。

委員：職員は若い人の回答が多いので、住民の若い人の意見と捉えて良いか。

事務局：職員は全員回答しているため、年齢構成もあり一概にそうとは言えないと思う。移住・定住者アンケートや中学生ワークショップなど、他の調査結果も合わせて考えていきたい。

委員：9ページの(8)「山北町はすみやすいところだと思うか。」の問いに対して、「まあ住みやすい」と「やや住みにくい」が5年前と比較して増えているが、これは高齢者の活動範囲が狭くなったことが理由か。

事務局：全てとは限らないが、それも要因の一つだと思う。

委員：7ページの(6)「幸せ度」で、地区別で見た時に山北1と山北2が「5点」と他地区より低い結果が出ている。一方で、33ページの(9)「山北町に住み続けたいと思うか」では「ずっと住み続けたい」という結果となっており、住み慣れた場所に住み続けたいという意思の表れなのか。

事務局：そこまでの細かな分析はできないが、それだけが要因とは言い切れないのではないか。

②各種団体調査、③移住・定住者へのアンケート調査、④中学生ワークショップ

(資料3、4、5により事務局説明)

委員：資料4の4ページの(5)「山北町に住むようになった理由」で、「子どもの教育のため」とあるが、これは教育制度のことか、それとも教育環境のことか。

事務局：そこまでは分からない。

委員：同じく4ページの(6)「山北町のよいところ」で「大きな公園が多い」や「公園がたくさんある」との回答があるが、どこの公園を指しているのか。

事務局：推測だが、ぐみの木近隣公園や県立つぶらの公園のことを指しているのではないか。他自治体から移住された方の回答であるため、例えば都市部の公園と比較したときに、大きかったり、広かったり、コロナ禍の中で密にならないと感じたことなどから、そのように回答されたのではないか。

委員：愛川町や中井町には鉄道が通っていないが大きな公園がある。公園を増やしてとの意見

もあったのでお聞きした。

委員： 団体や移住・定住などのアンケート調査結果は、町としてどう思うか。結果を見て、自分は当たり前結果だと思う。良いところもあるが課題もある。それを計画にどう活かしていくのか。

事務局： 町の弱いところは改善し、良いところは伸ばす方向で考えていきたい。

委員： アンケート結果が新しい計画に載ってくると考えて良いか。

事務局： 可能な限り反映させていく必要があり、特に交通の関係は力を入れていく必要があると考える。

(4) 山北町第6次総合計画基本構想(素案)について(資料7により事務局説明)

委員： 重点プロジェクトに入ってくる内容を、まちづくりの課題に入れなくて良いのか。山北町らしい計画をつくるにあたっては、入れたほうが良いのではないか。

事務局： 現状や課題については、基本計画の中で位置付ける事業とともに書き入れていく予定である。基本構想に入れたほうが良いかどうか、ご意見をいただければと思う。

委員： 山北町は9割が森林という他の自治体とは異なる要素もあり、前段部分に記載したほうが議論も深まり、山北らしい計画になるのではないか。

会長： 山北町の課題が伝わってこないと思う。全体的に、山北町に関わる部分は出来る限り付け加えて記載していく流れが良いのではないか。山北町の課題全ては書ききれないので、抽象的になるのは致し方ないと思うが、これだと一般的すぎると思う。このような課題があるからこのようなプロジェクトがあり基本計画に位置付けるという流れが良いと思う。

委員： まちづくりの課題の(3)グローバル経済と国際社会も大事だが、山北町としてどうするかを書いたほうが良い。やはり総論の中に、山北町の現状と課題を記載したほうが分かりやすいと思う。

委員： アンケートの中で出ていた交通や買物といった課題への取り組みはどこに入ってくるのか。

事務局： アンケート結果の概要の中で、買物や交通に関するものは記載していないので、検討させていただく。

会長： アンケート結果の概要には説明文等が入ってくるのか。

事務局： 記載していく予定である。

委員： 資料は事前に送られているのに、当日その説明に時間を割いては議論する時間が無い。総合計画に紐づけられる実施計画が一番重要なわけだが、我々が関与出来ないことが一番の課題と考えている。山北町では少子高齢化が大変な状況になっているということを感じられる計画でないとなれば今後の施策に生きてこない。DXやGX、SDGsについては、他自治体と比べて山北町の取り組みは遅いと思う。もっとインパクトがあるように進めなければならぬのではないか。また地域的に見て山北の課題はたくさんあるのではないかと思う。遅れていても進めていくことは良いことである。

事務局： 山北の課題を記載していく方向で検討したい。

委員： 耕作放棄地の増加や、高齢化による様々な団体役員のなり手不足は深刻な問題と考えるがどのように示されるのか。重点プロジェクトにも記載していかなければならないのではないか。

- 会 長： 個別の課題は山ほど在るが、全てを総論部分に記載することは難しい。事務局で課題部分については検討して欲しい。
- 委 員： まちづくりの課題の項目名についてはもう少し身近な表現にして欲しい。
- 事務局： 検討させていただく。
- 委 員： 基本構想を議論してから基本計画に繋げるのか。
- 事務局： その通りである。
- 委 員： 資料を前もって配付してもらっているのですが、委員には質問や問題点を事前に把握してもらい、会議の中では前向きな議論が出来る場にしてもらいたい。そうでないと意味のある計画が出来上がらない。総合計画は山北町の将来の根幹となるものである。山北町には多くの問題がある。地域的な課題や様々な跡地活用の問題もある。道路網の問題として、松田町の都市計画決定と絡めた酒匂川左岸道路の課題や、国有林や県有林のあり方、町の森林活用と保全の問題がある。一つ一つ考えながら議論を深め、町が把握し、実施計画に位置付けていくくらいの気持ちがないといけない。そして実施計画を実現するには、国や県、町、住民、団体の役割が入り、みんなでつくる住民参加のまちづくりとなるのではないか。
- 事務局： 実施計画まで踏み込んだご意見をいただいたところだが、委員の皆さんにお考えいただきたいのは、実施計画以前のものの議論をお願いしたいと考えている。
- 委 員： それは承知している。基本計画を作り上げるうえでは、そういう理念をもって取り組まないと良い計画が出来ないのではないかとこのことを言っている。町行政でも分からない課題はある。町民や民間の委員も入ったこの場で議論すると、そのような課題が分かり、総合計画に位置付けられることで、将来の実施計画につながるのではないか。
- 会 長： 今後の会議では議論に時間を確保出来るように、説明の時間短縮をお願いしたい。
- 委 員： 「基本理念～まちづくりのキーワード～」が、施策を展開するうえでの基本的視点のようなものを感じる。そういう意味では、将来像を一番先にもってきてそれに向けての視点として位置付けてはどうか。
- 会 長： 将来像を実現するために基本的視点のキーワードがあるといった流れのほうが良いのではないか。将来像のキャッチコピーにはあまり拘らなくて良いのではないかと思う。基本理念のキーワードについては、まちづくりの根幹をなすキーワードとなるのか、私も違和感を感じている。
- 委 員： 基本理念は重点プロジェクトから持ってきてはどうか。あるいはSDG sから持ってきてはどうか。
- 会 長： より具体的な検討の後に立ち戻り、議論を元に有用なキーワードを抜き出していくほうが生産的かと思う。重点プロジェクトについても、分野別構想や基本計画は示され段階で、行ったり来たりしながら検討していくことで良いか。現時点で重点プロジェクトに抜けている視点はないかご意見いただきたい。第4章の重点プロジェクトと第5章の分野別構想の関係性は。
- 事務局： 分野別構想は縦串となるが、縦串だけでは課題が解決しきれないことから、横串の重点プロジェクトを現計画では設けたところである。
- 会 長： 全く同じものもあるし、間接的なものもあると思うが、第4章に入ってくる内容は、第5章にも必ず入ってくるのか。

事務局： 入ってくると考えている。

委員： とすれば第5章から重点項目を抽出していったほうが全体的に分かりやすい。また、まちづくりの課題と重点プロジェクトがリンクしたほうが分かりやすい。16ページの「オンリーワンの磨き上げ」は言葉としては分かるが、例えば森林保全や観光といった分かりやすい言葉で項目出しをしていったほうが良いのではないか。

会長： 理想としてはA3横のペーパーで、第4章と第5章をリンクさせた資料があると理解しやすいし議論もしやすいと思うがどうか。

事務局： 検討させていただく。

委員： 今までのD52の活用方法では誘客は図れない。現状、ただイベントに来ているだけである。D52を御殿場線の一部空いている線路を活用して走らせることが出来ないか。また、ナラ枯れの被害木を再利用する工場を町に作れないか。神奈川県内には無いはずである。国も県も乗ってくれば林道計画の見直しにつながり、観光道路としても生きてくるのではないか。森林保全やD52の中身としては、それくらい踏み込んで考えた記載としなければならないと考える。

事務局： 基本計画の中で検討させていただきたい。

会長： 事務局の宿題は多くなったが、会の回数を増やすなどして進めていきたい。

(5) その他

委員： 会議の中では説明の時間を短縮し、議論の時間を確保していただきたい。

事務局： 今後の資料説明は時間を短くする。本日お示しした内容について質問や意見を今月中に提出をお願いしたい。

4. その他

・特になし

5. 閉会

以上で、山北町第2回総合計画審議会を閉会します。委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

以 上